



まっすぐな心をもった安城の子供たち

校長 福田 浩一



〇〇技師が丹精込めて育てたサイネリアの花が咲き誇り、春の訪れを感じます。そして、運動場いっぱい咲き乱れたマーガレットの花とともに、まるで安城の子供たちの卒業や進級を祝ってくれているようです。

メディアのニュースでは、信じられないような戦争や大規模地震により被害を受けた人々の姿が連日報道されています。このような厳しい時代だからこそ、人を慈しみ、きれいな花を見て「美しい」と言える安城の子供たちを心から誇りに感じます。

子供たちは、どの子も「伸びる芽」をもっています。しかし、その芽は大人が無理に伸ばそうと思っても伸びるものではありません。その子供が自らその気になったことで芽生え、やる気を湧きたたせ、夢中になって取り組むことで大きく伸びていくのだと思います。その自分自身で伸びようとする気持ちを育てるのは、学校だけではできません。保護者や地域の皆様との絶妙に連携した教育力があってはじめてできることだと思います。

「啐啄同時」（そったくどうじ）という言葉があります。今から30年ほど前、その言葉の意味を知らなかった新米教師の私に、今は亡き先輩の先生がこう教えてくださいました。

野鳥の世界では、卵の中のひなが殻をコツコツと破って生まれてこようとする瞬間を「啐」といいます。そして、その時、親鳥が同時に外側から殻をコツコツとつつくの「啄」といいます。ひな鳥が内側からつつく「啐」と、親鳥が外側からつつく「啄」とによって殻が破れて中からひな鳥が出てくるのだそうです。両方が一致してひなが生まれることを「啐啄同時」といいます。親鳥の啄が一瞬でもあやまると、殻の中のひな鳥の命があぶなくなるのです。教育も同じかもしれません、尊い仕事ですね。先輩の先生は優しい眼で、新米の私に教えてくださいました。

早いもので、あれから30数年が経ちました。

安城の子供たちを見ていると、家庭と地域と学校が協力した、まさに「啐啄同時」の教育が行われていると心から感じます。

今年度もコロナ禍での激動の1年でしたが、保護者や地域の皆様の温かい御支援のおかげで、安城小の20名の子供たち全員が無事に進級・卒業をすることができました。

来年度は、児童数も22名に増え、新たなる安城小学校が出発する予定です。

お世話になりましたすべての皆様に心から感謝申し上げます。



本当にありがとうございました。